



## 令和元年度 大学コンソーシアムやまがた事業報告書

### **地域貢献・活性化事業**（担当：企画会議）

「ゆうキャンパス・ステーション」を中心に、大学コンソーシアムやまがたの目的に合う事業を企画・実施した。

#### （１）学生による地域貢献・活性化プロジェクト

本コンソーシアムの目的の一つである地域貢献・活性化を図るため、学生が企画・実施する地域貢献・活性化につながる事業を行った。

具体的には、企画会議において公募し、学生により構成されている団体から提案された企画について、地域貢献及び活性化のための事業となっているか、実現可能性、効果等を審議した上で可否を決定し、採択された企画を支援するために助成金を交付した。

今年度４件の応募があり、２件採択した。

#### 【採択プロジェクト】

1. 企画名：高専発！Wear Science Technology (WeSTe) 製作所～親子で学ぶ科学教室～  
団体名：鶴岡高専サイエンスアカデミープロジェクト（鶴岡工業高等専門学校）  
目的：科学の面白さと身の回りにある技術について、学生が教える科学教室を開催することにより、親子の学びの機会を生み出すこと、学ぶ知識の地域への還元、理科教育の推進の３点を目的とする。  
内容：学校で学んだ技術を基に、３Dプリンター、地元企業から提供を受けた廃棄電子基板及びビスマス結晶の３種類を活用したアクセサリを作り、製作教室を開催する。  
助成額：70,000円  
期間：令和元年6月17日～令和元年12月8日  
※活動実績書を**報告1**として添付。

2. 企画名：SCITA（サイタ）プロデュース ～科学する心で地域活性～  
団体名：山形大学 SCITA センター学生スタッフ（山形大学）  
目的：子供たちに性格の中で身近に生き物を観察できる場所を提供し、自然科学への興味関心を育む。また、県内各地のイベントにおいて科学の楽しさ不思議さを伝えることで地域の活性化を図る。  
内容：1. 年間を通じて SCITA センター内で生活に身近な生き物やクラゲの飼育を行い、SCITA センターを訪れる人に観察してもらう。  
2. 学生スタッフが行う実験を一度に楽しめる実験教室やサイエンスショーを主宰する。  
3. 県内各地のイベントに参加して科学実験教室を行う。  
助成額：100,000円

期 間：平成31年4月1日～令和2年3月31日

※活動実績書を「報告2」として添付。

(2) 「やまがた夜話」

5月～2月の毎週水曜日（変則開催有）18:30～19:30に「ゆうキャンパス・ステーション」で30回開講した。

・延べ受講者数 906人（前年度 996人）

【夜話のチラシ】

令和元年5月



令和元年10月



令和元年11月



令和元年度「やまがた夜話」実施一覧

●5月 テーマ:市民と考える近代山形と大陸

回数	期 日	題 目	講 師	所 属・職 名	参 加 者 数
1	5月8日(水)	生物学者阿部襄 吉林と庄内と	山本 陽史	山形大学学術研究院 教授	32
2	5月15日(水)	山形県と満蒙開拓移民ー日本語を忘れても歌を忘れなかった残留孤児ー	齋藤 宏子 山本 陽史	放送大学全科履修生 山形大学学術研究院 教授	48
3	5月22日(水)	父母の大連での日々	鈴木 幸子 山本 陽史	山形市民 山形大学学術研究院 教授	47
4	5月29日(水)	大陸体験を継承することの意味	山本 陽史	山形大学学術研究院 教授	41
小計					168

●6月 テーマ:「実感データサイエンス講座」-社会人のためのPython実習 - 定員 20人

5	6月12日(水)	Python 言語の基本	脇 克志	山形大学理学部 教授	19
6	6月19日(水)	Pandasを使ったデータ解析	脇 克志	山形大学理学部 教授	15
7	6月26日(水)	Seabornで可視化	脇 克志	山形大学理学部 教授	14
小計					48

●8、9月 テーマ:「月山」に学び、地域を知る V」

8	8月28日(水)	月山の自然はジオパークとしての要件に劣るのか?	八木 浩司	山形大学地域教育文化学部教授	37
9	9月4日(水)	大岫峠は待っている	田中 秀樹	月山マイスター	32
10	9月11日(水)	飢餓地獄と出羽三山塔	高野 昌二	月山マイスター	38
11	9月18日(水)	月山のある風景	児玉 勝義	月山マイスター	31
12	9月25日(水)	月山は楽しい -冬から春-	佐藤 孝男	月山マイスター	25
小計					163

●10月 テーマ:日本仏教とはなんだろう

13	10月2日(水)	仏教とはなんだろう	松尾 剛次	山形大学名誉教授	45
14	10月16日(水)	日本仏教の特徴1 葬式仏教とはなんだろう	松尾 剛次	山形大学名誉教授	36
15	10月23日(水)	日本仏教の特徴2 なぜ日本の僧侶は結婚するの だろう	松尾 剛次	山形大学名誉教授	35
16	10月30日(水)	日本仏教の特徴3 鎌倉新仏教とはなんだろう	松尾 剛次	山形大学名誉教授	35
小計					151

●11月 テーマ:健康長寿へのみちしるべ

17	11月6日(水)	脂肪細胞からのメッセージ	内田 勝雄	山形県立保健医療大学名誉教授	18
18	11月13日(水)	筋肉細胞からのメッセージ	内田 勝雄	山形県立保健医療大学名誉教授	21
19	11月20日(水)	キーワードは AMPK	内田 勝雄	山形県立保健医療大学名誉教授	22
20	11月27日(水)	アルツハイマー病は脳の糖尿病?	内田 勝雄	山形県立保健医療大学名誉教授	25
小計					86

●12月(1) テーマ:国分一太郎と生活綴方

21	12月6日(金)	綴方教師の誕生と北方性教育運動への飛翔	安部 貴洋	山形県立米沢栄養大学教授	19
22	12月13日(金)	戦後の生活綴方と国分一太郎の遺産	安部 貴洋	山形県立米沢栄養大学教授	16
小計					35

●12月(2) テーマ:放送大学山形学習センター教養講座

23	12月4日(水)	家族関係の心理学	佐藤 宏平	放送大学客員准教授／山形大学准教授・地域教育文化学部担当	32
24	12月12日(木)	ことばも色々	富田 かおる	放送大学客員教授／山形大学教授・人文社会学部担当	11
25	12月17日(火)	算数・中学数学の「学び直し」 ～「長さ」を例に学び直してみよう～	佐藤 圓治	放送大学山形学習センター所長／山形大学名誉教授	14

26	12月18日(水)	心と身体の発達をうながす親の 関わり ～育脳の観点から～	森 直樹	放送大学客員准教授／山形県立保健 医療大学准教授	19
26	12月19日(木)	「里山資本」と地域活性化	下平 裕之	放送大学客員教授／山形大学教授・ 人文社会学部担当	17
30	12月20日(金)	SDGsと科学 その2	栗山 恭直	放送大学客員教授／山形大学教授・ 理学部担当	25
27	12月24日(火)	キリスト教と日本人 ～「世間」の視点から～	山本 陽史	放送大学客員教授／山形大学教授・ EM部担当	37
小計					155

● 2月 テーマ:SDGsを知ろう!学ぼう!やってみよう!

28	2月5日(水)	SDGsってなに?	山縣 弘忠	東北芸術工科大学 准教授	37
29	2月12日(水)	まちづくりとSDGs	高橋 弘之	山形県飯豊町企画 課長	35
30	2月19日(水)	企業活動とSDGs	佐藤 亮敏	リコージャパン(株)山 形支社地域創生推 進グループリーダー	28
31	2月26日(水)	国際協力活動とSDGs	阿部真理子	認定NPO法人IVY 理事	中止
小計					100
延べ人数					906

(3) 小学生を対象とした体験型学習の開催

各機関へ予算枠を示して企画を募集し、企画会議が選定した企画を実施。

3件の応募があり、2件採択した。

【採択プロジェクト】

1. 企画名：夏休み親子で不思議体験教室 ～今年は、国際周期表年2019年～

機関名：放送大学山形学習センター

内 容：県内各地で小学4年生から6年生を対象に夏休み「親子で不思議体験」教室として「算数を体験しよう」、錯覚で遊ぼう、「今年は国際周期表2019年」を開催する。

助成額：45,000円

実施日：令和元年8月4日(日)、8月16日(金)～18日(日)

会場等：東北公益文科大学、最上広域交流センターゆめりあ ほか2箇所

※実施報告書を **報告3** として添付。

2. 企画名：採って・触って・見て・楽しもう ～水田の生物多様性

機関名：山形大学農学部

内 容：生物多様性に配慮した自然農法(無肥料無農薬)の水田で、生物を採集して観察し、また、それらの生物を模したインドネシア風操り人形を用いて、水田生態系の機能について学習する。

助成額：49,650円

実施日：令和元年8月4日（日）

会場等：山形大学農学部附属やまがたフィールド科学センター

※実施報告書を「報告4」として添付。

(4) プロスポーツを活用した地域活性化活動の開催

企画名：モンテディオ山形杯 雪中棚田サッカー大会 in 大蔵 2020

会場：山辺町大蔵・中公民館及び棚田

内容：一般公募の11チーム及びモンテディオ山形ジュニアユースチームの12チームが参加して、山辺町大蔵地区の棚田でサッカー大会とわらび汁交流会を行うもの。今回で9回目の開催となる。

時期：令和2年2月14日（土）

※ 例年がない雪不足のため、中止。

また、他のプロスポーツとの連携事業について、加盟機関に企画の募集をしたが1件の応募もなかったため、引き続き検討していく。

**連携事業**（担当：事務局）

(1) 単位互換の推進

包括協定書に基づいた単位互換制度を推進した。また、同制度の利用推進を図るための交通費支援制度について周知するとともに、交通費の支援を行った。

**【実施内容】**

1. 単位互換推進チラシ等を作成。
2. 単位互換受講者数 前期 延7人、後期0人、合計延7人。詳細は下表のとおり。
3. 「ゆうキャンパス単位互換」履修学生交通費支援制度により下記のとおり支援を行った。  
交通費支援制度利用者数 前期2人、後期0人、合計2人。  
(山形県立米沢女子短期大学 2人)

**【前期】**

派遣大学等	受入大学等	科目名	人数
山形大学	東北芸術工科大学	生活とグラフィックデザイン	1
県立米沢女子短期大学	山形大学	経営学 a	1
		政治過程論1	1
		社会保障法	1
		地域政策論1	1
県立米沢栄養大学	県立米沢女子短期大学	日本史概説 I	1
		異文化コミュニケーション	1
前期合計			7

**【後期】** 利用実績なし

(2) 大学等進学説明会

高校生の進学意識形成や進学選択を支援するとともに、コンソーシアム加盟機関への進学率アップを目指して「大学等進学説明会」を開催した。

令和元年度大学等進学説明会一覧（参加生徒数：延1,832名）

NO	高校名	開催日時	実施形態 参加数計等	分野（）は参加数内訳	参加 延数
1	県立高島高校	5月16日(木) 15:00-16:30	個別進学相談、 (3学年生徒、 保護者約60名)	羽陽学園短期大学 東北芸術工科大学 東北公益文科大学 東北文教大学・同短期大学部 山形大学	約60
2	県立天童高校	5月17日(金) 13:40-15:20	学校説明及び模擬 講義 (1学年 158名) ①～⑤のグループ で開催	東北芸術工科大学④ 東北公益文科大学② 東北文教大学① 県立産業技術短期大学校④ 県立保健医療大学 看護学科③、作業療法学科 ⑤ 県立米沢栄養大学③ 山形大学①②	①44 ②31 ③32 ④23 ⑤28
3	県立寒河江工業 高校	5月23日(木) 13:00-15:00	学部・学科説明、 個別進学相談 (2学年 23名) 合同で開催	東北芸術工科大学(4) 県立産業技術短期大学校 (15) 山形大学(4)	23
4	県立酒田西高校	6月13日(木) 14:25-15:55	個別進学相談、各 大学の学部、学科 紹介等 (2学年 延204名) 2回開催	東北芸術工科大学 東北公益文科大学 東北文教大学・同短期大学部 県立保健医療大学 看護学科(20)、理学療法学 科(13)、作業療法学科(16) 県立米沢栄養大学 山形大学 地域教育文化学部(38)、理 学部(18)、工学部(16)、農 学部(10)	18 22 26 49 7 82
5	米沢中央高校	6月19日(水) 13:30-15:00	模擬講義 (1-3学年特進コ ース 162名)	東北公益文科大学 東北文教大学 山形大学 人文社会科学部①(12)、人 文社会科学部②(32)、工学 部①(30)、工学部②(29)	23 36 103
6	県立米沢商業高 校	6月20日(木) 13:15-14:45	学校説明、ミニ模 擬講義、個別相 談) (2学年 27名)	羽陽学園短期大学 東北芸術工科大学 東北公益文科大学 東北文教大学短期大学部 県立米沢女子短期大学 英語英文学科(5)、社会情 報学科(6)	3 3 7 3 11

7	県立谷地高校	6月20日(木) 13:15-15:25	模擬講義 (1,2学年 128名)	羽陽学園短期大学	25
				東北芸術工科大学	30
				東北文教大学	9
				東北文教大学短期大学部	10
				県立保健医療大学	27
				県立米沢女子短期大学	10
				山形大学	17
8	新庄東高校	6月20日(木) 13:50-15:40	模擬講義 (2学年 108名)	東北芸術工科大学	18
				東北公益文科大学	8
				東北文教大学・同短期大学部	18
				県立農林大学校	10
				山形大学 人文社会科学部(12)、地域 教育文化学部(12)、医学部 看護(22)、工学部(8)	54
9	県立山形北高校	6月29日(土) 8:40-12:30	文理選択進路講演 会、分科会 (1学年 162名及び 保護者(希望者))	県立保健医療大学	162
				県立米沢栄養大学	
				山形大学	
10	県立東桜学館高 校	7月2日(火) 14:00-16:05	学部・学科説明、 個別進学相談 (1-3年希望者 98名)	県立保健医療大学 看護学科(12)、理学療法学 科・作業療法学科(10)	22
				県立米沢栄養大学	6
				県立米沢女子短期大学	4
				山形大学	66
11	県立庄内農業高 校	7月11日(木) 10:30-12:30	個別進学相談、 模擬講義 (3学年 15名)	羽陽学園短期大学	1
				東北公益文科大学	7
				県立農林大学校	5
				山形大学	2
12	県立新庄北高校	9月27日(金) 13:45-15:30	個別進学相談 (1~3学年希望者 24名)	県立保健医療大学 看護学 科(7)、理学療法学科(4)	11
				県立米沢栄養大学	3
				山形大学	10
13	県立上山明新館 高校	11月21日(木) 13:30-15:30	個別進学相談、大 学学部等説明 (2学年 122名) 2回開催	東北芸術工科大学	17
				東北文教大学・同短期大学部	25
				県立産業技術短期大学校	22
				県立農林大学校	10
				県立保健医療大学	11
				県立米沢女子短期大学	16
				山形大学	21
14	県立鶴岡中央高 校	12月4日(水) 13:25-15:15	個別進学相談 (2学年 154名)	東北芸術工科大学	67
				東北公益文科大学	
				山形大学	
				羽陽学園短期大学	43
				東北文教大学・同短期大学部	
				県立米沢女子短期大学	44
				県立保健医療大学	
				県立農林大学校 県立産業技術短期大学校庄 内校	

15	県立新庄南高校	12月19日(木) 13:25-15:15	全体説明、模擬講義のあと質疑応答(1,2学年 延 361名) 2回開催	羽陽学園短期大学	23
				東北芸術工科大学	56
				東北文教大学短期大学部 総合文化学科(34)、子ども学科(48)	82
				県立産業技術短期大学校	16
				県立産業技術短期大学校 庄内校 電子情報科(57)、 国際経営科(36)	93
				県立保健医療大学 看護学科(44)、作業療法学科(22)	66
				県立米沢女子短期大学	13
16	県立北村山高校	12月19日(木) 13:30-15:20	個別進学相談 (2学年 延 26名)	山形大学	12
				羽陽学園短期大学	8
				東北公益文科大学	6
				東北文教大学・同短期大学部	7
				県立産業技術短期大学校	5

### 教職員の交流事業 (担当：事務局)

(1) 「第16回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム」への参加

開催日：令和元年8月31日(土)、9月1日(日)

会場：熊本学園大学

メインテーマ：「大学コンソーシアムとともに始まる大学づくり」

参加者：栗山 恭直(企画会議委員長、山形大学教授)

※報告書を **報告5** として添付。

(2) FD, SD研修会の開催及び参加

加盟機関の希望を検討して本コンソーシアムで実施するもの及び各機関で開催する研修会等で加盟機関の教職員が参加できるものを紹介し参加を促した。

#### ①FD研修会

・令和元年9月2日(月)

「男女共同参画推進講演会・研修会」

主催：山形大学

会場：山形大学小白川キャンパス基盤教育3号館

参加：保健医療大学1人、山形大学 20人

・令和元年9月12日(木)

「山形大学障がい学生支援センター研修会」

主催：山形大学

会場：山形大学小白川キャンパス人文社会科学部1号館

参加：山形県立保健医療大学2人、東北文教大学1人、山形県立産業技術短期大学校2人、東北芸術工科大学4人、山形大学24人の計33人

・令和元年9月13日(金) 山形大学小白川キャンパス

「東北地区障がい学生支援実務者研修会」

参加：山形県立保健医療大学1人、山形県立産業技術短期大学校2人、東北芸術工科大学2人、東北公益文科大学1人、山形大学3人ほか他県から6人

このほか各機関からの研修会、講演会等の情報提供を行った。

②SD研修：障がい学生への合理的配慮をテーマにした研修を実施した。

日時：令和元年12月25日（水）13:30～16:30

会場：ゆうキャンパス・ステーション

テーマ：障がい学生への合理的配慮について改めて考える

講師：山形大学障がい学生支援センター准教授

有海 順子 氏

参加者：羽陽学園短期大学1名、鶴岡工業高等専門学校1名、東北芸術工科大学4名、山形県立産業技術短期大学校1名、山形大学1名の計8名の教職員



#### **広報事業**（担当：事務局）

(1) ゆうキャンパス広報パンフレットの作成

大学コンソーシアムやまがたの事業及び加盟校を簡潔に紹介するパンフレットを4,300部作成し、県内の高校及び加盟機関へ配布した。

(2) ゆうキャンパスホームページ等の充実・管理

随時、イベントの周知や事業の募集について情報発信を行っている。また、ゆうキャンパスNAVIでは加盟機関の公開講座、オープンキャンパスやPR特集を掲載している。

・1日平均アクセス数 大学コンソーシアムやまがた…100  
ゆうキャンパスNAVI …41

(3) ゆうキャンパス・ステーションの充実

ゆうキャンパス・ステーションの貸し出し回数は年間71回。

加盟校の学校案内、各種イベントポスター、チラシによる情報提供を行った。

#### **男女共同参画推進事業**（担当：ダイバーシティ推進ネットワーク会議）

今年度は以下の活動を行った。

令和元年5月24日（金） 第1回ダイバーシティ推進ネットワーク会議開催

令和元年7月5日（金） ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業（連携型）に係る男女共同参画セミナーの開催（共催）

令和元年7月31日（水） 第2回男女共同参画推進状況アンケートの実施

令和元年11月14日（木） 第2回ダイバーシティ推進ネットワーク会議開催（持ち回

り会議)

令和元年11月19日(火) ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業(連携型)に係るシンポジウムの開催(共催)

その他のセミナー・交流会は以下のとおり

令和元年6月6日 英語論文の書き方・英語プレゼンテーションセミナー  
・連携機関教職員85名(鶴高専、保健医療大など10名)が参加

令和元年7月5日 全国ダイバーシティネットワーク東北ブロックの南東北会議  
・南東北の大学関係者12名(山形大学・米沢栄養大学6名)が参加

令和元年9月11日 交換留学(山形大学からDNPへ～9月13日まで)  
・山形大学5名、米沢栄養大学1名、東北公益文科大学1名が参加

令和元年9月26日 外部資金獲得セミナー(米沢栄養大学で開催)  
・連携機関教職員など31名が参加

令和元年11月19日 SDGs×COI若手・女性研究者交流会(女性研究者成果発表会)  
・連携機関教職員、学生など78名が参加

令和元年11月21日 大学院生のためのキャリア・就職活動セミナー  
・連携機関教職員、大学院生など20名が参加

※今年度の男女共同参画推進状況アンケート結果を**報告6**として添付。

#### **協力事業**(担当:事務局)

(1) 日本一さくらんぼ祭り「学生パフォーマンスゆうキャンパスステージ」

日本一さくらんぼ祭り実行委員会(山形県総務部学事文書課)の依頼により、加盟機関へ参加サークル等の募集を依頼し、以下のとおり実施した。

事業名:第8回 日本一さくらんぼ祭り

日時:令和元年6月22日(土)、23日(日)

場所:山形市 ゆうキャンパス文翔館ステージ

内容:下記の学生7団体が、学生パフォーマンス「やまがたゆうキャンパス・ステージ」に出演し、若さあふれるパフォーマンスを展開した。

出場団体:・山形大学 JAZZ 研究会

・山形大学 花笠サークル 四面楚歌

・山形大学 コピーダンスサークル twinkle

・山形大学 Cherries

・山形大学 マンドリンクラブ



- ・東北公益文科大学 アカペラサークルまごペル
- ・羽陽学園短期大学 ASHINAMI

(2) 留学生受入拡大に向けた協力（山形県総務部学事文書課）

県からの協力要請を受け、本コンソーシアムの総会や国際交流人材育成推進協議会の総会等において、加盟機関に対し、留学生受入拡大推進事業の情報提供や協力依頼を行った。

事業の実績は次のとおり。

①県内企業に就職希望がある留学生に対する支援

本県に就職する意思があり、県内企業へ就職活動又は就職準備活動を行う者に対し、給付型奨学金の支給を行った。

支給額：月額2万円

支給人数：16人（山形大学15人、東北文教大学短期大学部（留学生別科）1人）

②入学者募集活動に対する支援

県内高等教育機関が行う留学生の入学者募集活動に対する補助を行った。

対象事業：日本語教育機関・海外の教育機関への訪問、外国人向けの進学説明会・留学フェアへの参加

対象経費：旅費、出展小間料等

補助額：補助率1/2、上限10万円

補助先：3校（東北公益文科大学、東北文教大学、専門学校山形V.カレッジ）

### ゆうキャンパス・ステーションの移転

大学コンソーシアムやまがたの活動拠点である「ゆうキャンパス・ステーション」を山形駅前の山形むらきさわビル1階から、山形市緑町の「遊学館」2階へ令和2年1月に移転した。

また、令和2年2月1日、2日の県立図書館のリニューアルオープン及びイベントに合わせ、新しくなったゆうキャンパス・ステーションにおいて以下のイベントを開催した。

2月1日（土）

13:15～15:10 「くうきのふしぎ」

山形大学理学部サイエンスコミュニケーター B 理科読書の学生

参加者 小学生及び保護者 41人

17:00～18:30 やまがた夜話「仏像の研究者たち」

講師 東北古典彫刻修復研究所副所長 渡邊 真吾 氏

参加者 45人

2月2日（日）

10:00～11:00 「親子算数教室」放送大学山形学習センター

講師 放送大学山形学習センター長 佐藤 圓治 氏

参加者 11組21人

11:15～12:15 「親子科学教室」放送大学山形学習センター

講師 山形大学教授（理学部担当） 栗山 恭直 氏

参加者：19組38人

13:00～17:00 大学コンソーシアムやまがた加盟機関紹介パネル展示

※リニューアルオープンイベントの様子を **報告7** として添付。

以上

様式第 2 号

## 活動実績書

団体名 鶴岡高専サイエンスアカデミープロジェクト

代表者 鈴木 凜

企画名	高専発！Wear Science Technology (WeSTe) 製作所～親子で学ぶ科学教室～
目的 (活動によって期待される、地域貢献・活性化の具体的な内容)	本活動は、科学の面白さと身の回りにある技術について学生が教える科学教室を開催することにより、親子の学びの機会を生み出すこと、学ぶ知識の地域への還元、理科教育の推進、以上3点を目的とする。地域おこしのイベントと共催で科学教室を開催することでより多くの多様な年齢層の親子を対象とした科学教室が実現できる。その結果、科学への関心を親も子も高め、身の回りの科学に対する興味関心を深める親子関係・家庭環境をつくることことができる。日ごろ学んだ知識や技術を地域の子どもの科学に対する意識向上に生かしたいと考える。
活動の内容 (具体的に)	<p>Wear Science Technology (身につける科学技術) と名付け、科学を使ったアクセサリーを作り、科学技術の魅力を発信することを目標に活動した。</p> <p>【活動①】中学生一日体験入学 令和元年7月27日(土)に鶴岡高専主催の中学生一日体験入学において3Dプリンターを用いたイヤリング作りと廃棄電子基板を用いたヘアゴム作りを実施した。3Dプリンターの仕組みや基板がどのように機械に組み込まれているのかを解説し、中学生と共に制作した。</p> <p>【活動②】こしゃってマルシェ秋ワークショップ「科学であそぼう！」 令和元年10月6日(日)に鶴岡市榎引地域のまちづくりイベント「こしゃってマルシェ」(くしびきこしゃってプロジェクト主催)において科学教室を実施した。3Dプリンター、廃棄電子基板、ビスマス結晶の3種類の科学素材を用意し、ヘアゴムやイヤリング、ストラップなどを作成した。3Dプリンターではその場でデザインして印刷されたパーツを使うことで、その仕組みを実感した。廃棄電子基板ではパソコンを分解して、基板がどのように機械の中で働き、活躍しているのかを学んだ。ビスマス結晶では形や色の美しさが自然の中で生み出されることを知り、その不思議を体感した。それぞれ学生が“博士”となって参加者に説明し、質問に応じた。中学生一日体験入学での経験を生かし、説明する時の言葉の選び方や、動画を用意して説明するなど、教える難しさと伝わった時の喜びを学んだ。参加者は3種類の素材を組み合わせるなど、想定していた作品以上にバラエ</p>

	<p>ティ豊かな作品を制作した。多くの親子が参加してくれ、親子間や学生との会話を楽しみながら世界で一つの自分で作る WeSTe を楽しんでいた。</p> <p>こしゃってマルシェの参加者のほとんどが未就学児とその保護者であった。見たこともない3Dプリンターや基板、ビスマス結晶に触れ、保護者も驚くほどの興味を示す子どももいた。また、保護者や大人の方が興味深く学生に質問することが多かった。アクセサリ制作では「お母さんにおみやげにする!」「離れて暮らす大学生の娘に作りたい」など、家族を想う温かさを感じられるやり取りもあった。基板のヘアゴムを着物の帯締めに使いたいと飛び入りで参加してくれたおばあさんもいた。様々な年齢層の人々との関わりの中でコミュニケーション能力を高めることができたと感じている。</p> <p><b>【活動③】高専祭</b></p> <p>こしゃってマルシェでの経験を生かし、令和元年10月26日(土)27日(日)の高専祭においてアクセサリ制作のブースを設けた。(AMデザイン部内)高専祭にはこしゃってマルシェをきっかけに科学に興味をもって訪れた親子もおり、地域での活動が科学への興味関心につながっていることがわかった。</p> <p><b>【報告活動】「知の拠点庄内」シンポジウム</b></p> <p>令和元年12月8日(日)に今年度の活動を含む地域イベントにおける科学教室について、顧問の森木三穂(鶴岡高専創造工学科基盤教育グループ助教)が「知の拠点庄内」シンポジウムにおいて報告した。</p> <p><b>【波及効果】問い合わせ状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度の「こしゃってマルシェ」において科学教室の実施依頼があった</li> <li>・作成したヘアゴムを身につけていた子どもが通う保育園から問い合わせがあった</li> <li>・他のイベントでの実施についての相談を受けた</li> </ul>
実施時期	令和元年6月17日 ～ 令和元年12月8日

様式第 2 号

活動実績書

団体名 山形大学 SCITA センター学生スタッフ  
 代表者 筒井 佳菜

<p>企画名</p>	<p>SCITA (サイタ) プロデュース～科学する心で地域活性～</p>
<p>目的                  (活動によって期待される、地域貢献・活性化の具体的な内容)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の周りの世界に興味を持ち始めたばかりの子どもたちに、生活の中で身近に生き物たちを観察できる場所を提供し、また絵本等でも自然について感じてもらうことで子どもたちの自然科学への興味関心を育む。</li> <li>・県内の他のボランティア団体と協力してイベントを主催することで、学生スタッフ自身のコミュニケーション能力、イベントの企画、運営能力の向上を図りより一層地域社会に貢献できる活動を目指す。</li> <li>・県内各地のイベントに参加し、科学の楽しさや不思議さを老若男女問わず伝えることで、世代間のコミュニケーションをとる機会をつくり、地域の活性化を図る。</li> </ul>
<p>活動の内容                  (具体的に)</p>	<p>(1) 自分の周りの世界に興味を持ち始めたばかりの子どもたちに、生活の中で身近に生き物たちを観察できる場所を提供し、また絵本等でも自然について感じてもらうことで子どもたちの自然科学への興味関心を育む。</p> <p>山形大学 SCITA センター内でキンギョ、メダカといった身近な生き物と山形県の一観光資源であるクラゲの飼育を行った。今年度は生き物の飼育に力を入れ、特にクラゲを大きく成長させることができた。また SCITA センターを来訪してくれた方に生物を観察してもらった。その際に生き物の成長などを交えて、透明骨格標本を使って生き物の骨格について説明し、生き物についての興味をより持ってもらった。</p> <p>(2) 県内の他のボランティア団体と協力してイベントを主催することで、学生スタッフ自身のコミュニケーション能力、イベントの企画、運営能力の向上を図りより一層地域社会に貢献できる活動を目指す。</p> <p>隔週で月に 2 回程来訪する山形大学小白川キャンパス保育所のびのびの子供たちに、SCITA センター内で飼育している身近な生き物、クラゲなどを観察してもらい、生き物に興味を持ってもらった。また、子供たちに地球温暖化に関する絵本の読み聞かせや動物のクイズなどをおし科学に触れてもらった。また、簡単な科学工作(偏光板万華鏡、変声期など)を体験してもらうことで、楽しみながら、より科学への興味関心を育むことができた。既存の実験を幼児でも簡単にできるように工夫したため、あまり固い印象を与えずに子供たちに科学を体験させることができた。</p>

	<p>(3) 県内各地のイベントに参加し、科学の楽しさや不思議さを老若男女問わず伝えることで、世代間のコミュニケーションをとる機会をつくり、地域の活性化を図る。</p> <p>のどか村まつりでは、スターラーを使い、作るだけではなく見ているだけでも楽しめるものを展示するなどして、地域の方々と協力して盛り上げることができた。他にも産業科学館での実験教室、モンテディオ山形の試合前やエスモールでのブース出展など、県内各地でイベントを行い、科学を広めることができた。また今年度は科学展示にも力を入れ、子供だけでなく、保護者の方も気軽に科学に触れていただき、共通の話題による世代間のコミュニケーションの一つとなり、地域活性化に貢献できた。</p>
実施時期	平成 31 年 4 月 1 日 ～ 令和 2 年 3 月 31 日



山形大学小白川キャンパス保育所のびのびの子供たちの様子



のどか村まつりでの科学体験教室の様子

小学生を対象とした体験型学習

「夏休み親子で不思議体験教室～今年は、国際周期表年 2019 年～」  
実績報告書

放送大学客員教授/山形大学教授 栗山恭直

開催日時：2019年8月4日（日）13：30～14：45

会場：東北公益文科大学公益ホール2階中研修室2

参加人数：小学生5人、保護者4人 計 9人

開催日時：2019年8月16日（金）13：30～14：45

会場：最上広域交流センターゆめりあ2階会議室

参加人数：小学生1人、保護者2人 計 3人

開催日時：2019年8月17日（土）13：30～14：45

会場：県産業科学館4階発明工房

参加人数：小学生20人、保護者16人 計36人

開催日時：2019年8月18日（日）14：30～15：45

会場：米沢市理科研修センター

参加人数：小学生16人、保護者16人 計32人

実施内容

放送大学山形学習センターでは、今年も、未来を拓く子どもたちに「学ぶ」・「科学する」ことの楽しさ実感してもらうため、県内各地で小学生4年生から6年生を対象に夏休み「親子で不思議体験」教室開催しました。

今年のテーマは、親子算数教室は「算数を体験しよう」、親子で錯覚を学ぶは「錯覚で遊ぼう」及び親子科学教室は「今年は、国際周期表年 2019 年」とし、山形県内の全ての小学校（4年生から6年生全員）にチラシの配布を依頼し、募集を行いました。さらに、山形県教育委員会及び県内各市町村教育委員会にも協力依頼を行いました。

親子科学教室では、放送大学客員教授／山形大学教授栗山恭直先生を講師に迎え、メンデレーフが周期律を見つけてから今年で150年になり、世界中でお祝いのイベントが開催されていることから、「今年は、国際周期表年 2019 年」をテーマに、元素の発見に関する実験を行い、元素記号の歴史について学習しました。



スライドを使い元素についての説明風景



水を電気分解する実験で、火をつける瞬間

8月4日（日）は東北公益文科大学公益ホール2階中研修室2（酒田市）、8月16日（金）最上広域交流センターゆめりあ2階会議室（新庄市）、8月17日（土）山形県産業科学館4階発明工房（山形市）及び8月18日（日）米沢市理科研修センター（米沢市）の県内4地区で開催しました。

今回の親子科学教室では、小学生にも分かりやすくスライドを使い、元素周期表の作成したドミトリ・メンデレーエフの紹介から始まり、国際周期表年とは？元素とは何か？等の説明を行いました。引き続き、ミニ実験を行いました。最初にブリーボルト実験です。水酸化ナトリウム、ブドウ糖、メチレンブルーを使用して、ボトルの色の変化等の実験を親子で実際にやってもらいました。その後、なぜ色が変わるか等の説明がありました。次の実験では、水の電気分解です。炭酸ナトリウム水溶液を用いて水を電気分解し、水素と酸素に火をつける実験です。実際に親子でやってもらいましたが、なかなか爆発が起きなくボランティア学生に協力してもらいながら、ようやく爆発することができました。「ポン」という爆発音に子供たちはびっくりしながらも興味津々で何回も恐る恐る実験を繰り返していました。実験後、爆発した水素と酸素はどうなったかのクイズも出され、子供たちは真剣に答えていました。最後の実験では、最初に蛍光灯の光を分光器を覗きながら色の確認を行い、その後、カルシウム、リチウム、ナトリウム、バリウム、銅を燃やした光を分光器で覗き炎色反応を実際に目で確認しました。

最後に栗山先生から「元素周期表」のプレゼントがありました。その周期表を用いて、栗山先生からクイズ形式の問題がだされ、親子で周期表を見ながら協力して答えを見つけていました。また、周期表を用いて家族での遊び方の説明もありました。

おまけのお話では、スマートフォンで「東京エレクトロン」ARアプリ(無料)「げんそ博士が動く！しゃべる！ARアニメ動画のスマホアプリ」をダウンロードし、AR元素周期表にスマートフォンをかざすと、各元素カードのアニメーション動画を楽しむことができる説明もあり、実際に栗山先生が実演され、子供たちは先生を囲み興味津々にスマートフォンを覗いていました。

今回の親子科学教室のテーマは難しそうに感じられましたが、参加された親子からは、楽しかった、面白かった、わかりやすく大変勉強になった等の意見もいただき、また、来年の開催についての質問などもあり大変有意義な教室になりました。



水を電気分解するために懸命に発電中



スマホアプリで元素を学習している親子

小学生を対象とした体験型学習

「採って・触って・見て・楽しもう～水田の生物多様性」実績報告書  
山形大学

開催日時：2019年8月4日（日）

会場：山形大学農学部フィールド科学センター（鶴岡市高坂字古町 5-3）

参加人数：小学1年～2年生の子ども3名および保護者

参加スタッフ：教員1名、大学院生1名、学部生5名（留学生）

**実施内容：**山形大学農学部の動物生態学研究室では各国からの留学生および全国各地のメンバーが一致団結して、近年では特に水田生態系や各種生物の水稲栽培における機能について日々研究を行っている。これらの生物の中には水稲栽培において重要な機能を果たすものや、地域で失われつつある文化に関係するものなど、人間生活に関係が深い生き物が多い。これらの生物を実際に採って、触って、見て楽しむことで、地域小学生の水田生態系への理解を深めることを本企画の目的とした。水田の特徴として、畑地環境に比べて見られる生物の多様性が挙げられる。我が研究室の特徴も構成メンバーの国籍が実に多様である。以上の特徴を生かし、多様性をキーワードに、小学生が楽しめるよう多種多様なプログラムを短い実施時間に詰め込んだ。本学習企画は全三部の小企画で構成した。各小企画事に当日の様子を以下にまとめた。

**第一部（午前9時～10時）水田生物を採ってみよう：**この時期の水田の多くは水が無く生物があまり見られないが、今回用意した圃場は水抜き（中干）をしなかったことに加えて、一切の化学肥料や農薬を用いていなかった。そのため8月上旬にもかかわらずドジョウなどの小魚類からカゲロウ幼虫などの水生昆虫まで数多くの生物が見られた。水生生物および陸生生物それぞれを採取する網を用意し、参加者とスタッフが共同で数多くの生物を採取した。当日の天候は快晴、30℃を超える真夏日だったが、参加者は元気よく生き物採集に取り組んだ。



**第二部（午前10時～11時）：水田生物を触って、見てみよう：**採取した生き物に加え、事前に準備した水生生物サンプルの処理（生き物の選別）を実験室内で行いました。ガムシの成虫を始め20種類程度の生物が観察できました。



### 第三部（午前 11 時～11 時 30 分）：水田生物（の生態）を楽しもう

見つけた生き物の中から代表的なものを選んで、その生態や生態系における機能について簡単な講義を行いました。講義のあとは、インドネシアのパペットショー（人形劇）で田んぼの生態系について楽しく学びました。またパペットショーの合間に研究室メンバーが作った田んぼの生きものの歌を、日本語とインドネシアでそれぞれ合唱し、インドネシア語もちょっとだけ勉強しました。



### 参加者の声

○参加者が少なかったので最初は結構緊張しましたが、フレンドリーに接して下さい、楽しく学ぶことが出来ました。夏休みの自由研究として報告させていただきました。

○子供がとても虫好きなので大変満足したようです。また、夏休みの自由研究の題材にすることもできました。子供が、「また行きたい（参加したい）！」「秋のときに、秋の虫も見てみたい！」と言っておりました。」

○留学生との交流はとてもいい経験になったのではないかと思います。パペットショーが全部英語だったので、ところどころに日本語で訳したナレーターでも入れていただければ、子供もわかったのではないかと思います。

## 第16回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム報告書

テーマ：「大学コンソーシアムとともに始まる大学づくり」

期 日：令和元年8月31日（土）、9月1日（日）

場 所：熊本学園大学

参加者：栗山恭直（山形大学教授・企画会議委員長）

## 9月1日

- 1 基調講演：「大学コンソーシアムとキャンパスアジアの可能性」  
講師 姜尚中（熊本県立劇場 館長）
- 2 シンポジウム：「大学コンソーシアムとともに始まる大学づくり」  
講師 半藤英明 甲斐隆博 小野泰輔 中山峰男 姜尚中
- 3 文教行政報告：高等教育政策の動向について  
講師：平野博紀（文部科学省高等教育局 大学振興課）

## 9月2日

【分科会】第4分科会「人・大学・まちの成長、発展に繋げる大学コンソーシアムの活動とは」

久隆浩 中川邦彦 松下賢一 田中邦明

初日の基調講演とシンポジウムでは、今回のテーマについて意見交換が行われた。特に、小野熊本副知事から人口減における今後の大学は、地元に残る教育仕組みづくりを期待したいとの意見があった。それに対してUIターンで熊本に就職してもらうためにももっと企業側も努力が必要で進めている紹介があった。基調講演では、大学の存在意義が問われていて、モビリティと地域がキーワードであり、事例をあげて説明された。地域のためにグローバル人材育成が必要で規模や専門のちがうコンソーシアムが協力する可能性を挙げられた。大学への寄付文化が発達するような取り組みがもっと盛んになると経済格差で進学できない学生が入学できるようになるとの意見があった。肥後銀行のデータを基に毎年100億円の遺産が首都圏へ移動していて、いくらかが地元の大学に寄付されると大きい効果が期待されるとの説明があった。大学が連携して行うことによるメリットについて意見交換が行われた。

ポスターセッションでは、やまがたでも行っている子供向けイベントについて情報を収集した。岡山では県と協力し、日ようび子ども大学など、児童向けの企画に学生が参加する取り組みの発表が。また、神戸でも子供向けにイベントを学生委員会を中心に進めているようだ。去年の学生委員会の取り組みは今年も報告され、ICTを利用した取り組みが加えられていた。

二日目の分科会では、コンソーシアムの歴史が報告され、短大の存続で重要な役目をしたのではないかと報告や、社団法人やNPO化しているコンソーシアムもあることが分かった。どのコンソーシアムも特徴を持って活動していた。

以上



令和元年度

「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」

男女共同参画推進状況アンケート結果（まとめ）

（令和元年5月1日時点）

## 令和元年度 「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」男女共同参画推進状況アンケート結果（まとめ）

		1	2	3	4	
1	教育機関名	データの定義（R1.5.1現在）	羽陽学園短期大学	鶴岡工業高等専門学校	東北芸術工科大学	山形県立保健医療大学
2	教員数	常勤（非常勤除く）の教員（助手以上） 4～5の教員も同定義で、学校基本調査の常勤教員数	16人	62人	99人	56人
3	事務職員数	6～7の事務職員も同定義で、学校基本調査の常勤事務職員数	11人	40人	94人	12人
4	女性教員数	常勤の女性教員の合計（助手以上）	6人	6人	11人	32人
5	女性教員の割合	すべての常勤教員（助手以上）に占める女性の割合	37.5%	9.7%	11.1%	57.1%
6	女性事務職員数	常勤の女性事務職員の合計	6人	13人	50人	6人
7	女性事務職員の割合	すべての常勤の事務職員数に占める女性の割合	54.5%	32.5%	53.2%	50.0%
8	女子学生数	女子学生の在籍数（全学年・全学部合計、大学院は除く）	180人	140人	1605人	359人
9	女子学生の割合	すべての学生の在籍数（全学年・全学部合計、大学院は除く）に占める女子の割合	96.3%	17.4%	67.4%	77.0%
10	女性管理職の割合	課長級以上の事務職員、管理職の教員（副学部長以上・校長・園長など）、その他課長級以上に相当する管理職の合計に占める女性の割合	22.2%	0.0%	23.1%	22.2%
11	役員に占める女性の割合	法人の場合のみ記入 会社法の役員（学長・理事・監事など）に占める女性の割合	18.2%	%	0.0%	12.5%
12	男女共同参画基本計画	有無に○印 （有の場合、策定した年月日を記入）	無	有 （平成23年 9月12日）	無	無
13	男女共同参画推進の組織	有無に○印 （有の場合、担当部署を記入）	無	有 （男女共同参画推進委員会）	無	無
14	一般事業主行動計画	有無に○印 （有の場合、策定した年月日を記入）	無	有 （平成28年 3月29日）	有 （平成29年 3月31日）	無
15	女性教員割合の目標	項目13有の場合、目標値を記入 無の場合は無記入	無	専門学科20%以上、全体で30%以上 （ただし、特に新規採用教員に占める女性の比率とし、早期達成を目指す）	無	無
16	女性管理職割合の目標	項目13有の場合、目標値を記入 無の場合は無記入	無	教授職に占める割合7%以上、事務職員の管理職（課長以上）10%以上（早期達成を目指す）	無	無
17	現状と課題	各機関の現状と課題について記入してください。 *以下、17～20の欄の幅は自由に広げてください。	現状 女性教員、女性事務職員、女子学生の割合が高く、女性管理職は一定の割合を占めている。育児・介護休業制度が整備され、業務との両立に理解のある雰囲気がある。 課題 急な休みの取得が可能となるよう業務を複数で共有する職場体制づくり、ワーク・ライフ・バランスに関する意見や要望を積極的に汲みとるシステムづくりが求められる。	(1) 現状 女性教員の数は平成15年までは0人から平成27年から6人まで増加した。女性教員の割合は向上したもののまだ、目標30%以上にほど遠い。また、教授職・管理職に占める女性教員の割合は0%のままである。今年度から女子寮を拡張した。 (2) 課題 女性教員の割合と女性管理職の割合を増やす努力を引き続き、続けていくこと。本校の教員のワークライフバランスについて改善していくこと。女子学生・女子教員のための施設面での整備を続けていくこと。	(1) 現状 教員、職員いずれにおいても、男女の区別に関わらず実力に応じて管理職への登用を行っている。	
18	今年度の取組	各機関の男女共同参画に係る今年度の取組（予定を含む）について記入してください。	育児や介護の必要性が生じた場合の、業務との両立に理解ある環境を堅持していく。	・女子学生の使用するトイレや更衣室の改修に関する意見を聞く。 ・男女共同参画、および、ワークライフバランスに関する様々な情報を周知し、意識の涵養をはかる。		
19	情報交換	各機関と情報交換（質問も含む）したいことについて記入してください。（事務局が各機関に回答を依頼します。）		・とくになし。		
20	意見・感想	平成30年度アンケート結果報告に対する意見・感想などを自由に記入してください。	各機関の現状や取組を知る機会となり参考になった。	・継続していくことが大事だと思います。		

## 令和元年度 「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」男女共同参画推進状況アンケート結果（まとめ）

	5	6	7	8	9	10	11
1 教育機関名	東北公益文科大学	東北文教大学	東北文教短期大学部	放送大学山形学習センター	山形県立産業技術短期大学校	産業技術短期大学校庄内校	山形県立農林大学校
2 教員数	43人	22人	35人	1人	35人	18人	34人
3 事務職員数	46人	18人	22人	1人	8人	6人	7人
4 女性教員数	10人	3人	19人	0人	2人	2人	7人
5 女性教員の割合	23.3%	13.6%	54.2%	0.0%	5.7%	11.1%	25.9%
6 女性事務職員数	27人	14人	18人	0人	2人	1人	3人
7 女性事務職員の割合	58.7%	77.7%	81.8%	0.0%	25.0%	16.7%	42.9%
8 女子学生数	312人	264人	328人	270人	18人	17人	28人
9 女子学生の割合	33.8%	72.7%	85.2%	54.1%	7.5%	34.0%	25.0%
10 女性管理職の割合	28.6%	40.0%	42.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
11 役員に占める女性の割合	6.3%	10.0%	10.0%	%	%	%	%
12 男女共同参画基本計画	有 ( H26年10月1日 )	無	無	無	有 ( 平成 28 年 3 月 )	有 ( 平成 28 年 4 月 )	有 ( 平成 28 年 3 月 )
13 男女共同参画推進の組織	有 (大学戦略推進室(女性研究者対	無	無	無	有 (山形県 若者活躍・男女共同参画課)	有 (山形県 若者活躍・男女共同参画課)	有 (山形県 若者活躍・男女共同参画課)
14 一般事業主行動計画	無	無	無	無	有 ( 平成 28 年 3 月 )	有 ( 平成 28 年 4 月 )	有 ( 平成 28 年 3 月 )
15 女性教員割合の目標	25.0%	無	無	無	無	無	無
16 女性管理職割合の目標	無	無	無	無	15%(山形県全体として)	15%(山形県全体として)	32年度までに15%
17 現状と課題	目標値や実績の定期的な検証が課題			特になし	(1) 現状 山形県全体としては女性の男女共同参画の推進は進んでいるが、学校単位では、女性教員数、学生数ともに少ない。 (2) 課題 理工学系を志望する女子学生数がもともと少ないため、女子学生の割合も少ない。理系、もしくは技術職を志望する高校生の掘り起こしが必要である。	山形県参照	(1)現状 本校は県立の教育機関として「山形県男女共同参画計画」に基づいて、男女共同参画に取り組んでいる。 本校研修部では、「アグリウーマン塾」を実施し、女性農業者の事業展開を支援している。また、「女性向け農業機械基礎研修」を実施し、農業機械の日常点検方法、操作方法等の習得を支援している。 (2)課題 受講者は家庭や地域の用事等で時間の制約があり、出席できない場合がある。
18 今年度の取組	特になし			特になし	オープンキャンパスなどの機会を活用し、一人でも多くの女子学生に短大を知ってもらい、志願してもらえようとする	山形県参照	昨年度と同様に取組を進める。
19 情報交換	ダイバーシティの確保や、男女共同参画を推進させるための仕組みについて。			特になし		山形県参照	特になし。
20 意見・感想	このような取組みを継続的に進めてほしい。			特になし		山形県参照	特になし。

## 令和元年度 「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」男女共同参画推進状況アンケート結果（まとめ）

	12	13	14	15
1 教育機関名	山形県立米沢栄養大学	山形県立米沢女子短期大学	山形工科短期大学校	国立大学法人山形大学
2 教員数	21人	33人	3人	821人
3 事務職員数	18人	18人	5人	1377人
4 女性教員数	11人	10人	0人	120人
5 女性教員の割合	64.7%	30.3%	0.0%	14.6%
6 女性事務職員数	5人	5人	2人	840人
7 女性事務職員の割合	27.8%	27.8%	25.0%	61.0%
8 女子学生数	167人	589人	10人	2663人
9 女子学生の割合	96.0%	100.0%	45.0%	36.9%
10 女性管理職の割合	33.3%	16.7%	12.5%	14.3%
11 役員に占める女性の割合	20.0%	20.0%	14.0%	12.5%
12 男女共同参画基本計画	無	無	無	有 (平成22年6月)
13 男女共同参画推進の組織	有 (ダイバーシティ研究環境実現プロジェクトチーム)	無	無	有 (男女共同参画推進室)
14 一般事業主行動計画	無	無	無	有 (平成28年3月、平成31年4月1日)
15 女性教員割合の目標	47.1% (助手を含まず)	無	無	17.0%
16 女性管理職割合の目標	無	無	無	20.0%
17 現状と課題	(1) 現状 平成27年度から山形大学、DNPと連携し、ダイバーシティ研究環境の実現に向けた事業を実施している。 (2) 課題 ・教職員の純増は困難なため、女性職員の採用は欠員補充の機会を待つ必要がある。また、長い期間をかけて取組む必要がある。また、上位職(教授)の女性教員が少いため、女性教員数の増加とあわせ、育成と上位職への登用も進めていく必要がある。 ・現在のところ栄養分野への従事者は圧倒的に女性が多く、本学としては逆に男子学生の確保が課題となっている。	(1) 現状 ・米沢栄養大学と同一の法人が運営しているため、米沢栄養大学が実施する事業に参加する形で、男女共同参画を推進している。 (2) 課題 ・教職員の純増は困難なため、女性職員の採用は欠員補充の機会を待つ必要がある。また、長い期間をかけて取組む必要がある。また、上位職(教授)の女性教員が少ないため、女性教員数の増加とあわせ、育成と上位職への登用も進めていく必要がある。 ・小規模な大学のため、推進担当の専門部署を設置することが難しい。	毎年、女子学生が一定人数で入学するが、教員はすべて男性である。必要に応じて女性事務職員が女子学生に対応しており、現状、特段の問題は発生していないが、女性教員が常勤していることは理想的である。	(1) 現状 平成27年度から米沢栄養大学、DNPと連携し、ダイバーシティ研究環境の実現に向けた事業を実施している。 (2) 課題 女性研究者の活躍のための両立支援、研究力向上、次世代育成の面で大きな前進があった。一方、女性優先公募やインセンティブ付与などを実施しても、女性研究者の在職比率(特に理工系)・管理職比率の目標達成が難しい。ネットワークなどを活用し、事業終了後も女性活躍を支援していきたい。
18 今年度の取組	・4月～：研究支援員(出産、育児、介護等)の配置 ・9月：外部資金獲得セミナー ・2月：女性研究者研究成果発表会	・米沢栄養大学の事業に参加。		男女共同参画基本計画(第2次)の策定中。ダイバーシティ、性的指向・性自認、無意識のバイアスなどの追加を検討している。
19 情報交換	・本学では、女性教員の割合を増やすために、教員等の採用の際にポジティブアクションにより、採用の基準を満たす者の中から男性より女性を優先して採用することを実施しているが、各機関で採用の際に何か取り組まれていることがあればお教え願いたい。	・米沢栄養大学のアンケートに記載のとおり。		・全国ダイバーシティネットワーク組織のウェブサイトをご覧いただき、感想や意見をお聞かせください。 <a href="https://www.opened.network/">https://www.opened.network/</a> ・東北ブロック会議で私立大学や高等専門学校の参加を募集していますがご検討いただけませんか。(宮城学院、仙台高専が参加)
20 意見・感想				・コンソーシアムやまがたの取組が全国で高く評価されているので、交流やアンケート調査を継続して、ダイバーシティを推進していきたいと思えます。

「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」男女共同参画推進状況アンケート 一覧表

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
1 教育機関名	羽陽学園短期大学	鶴岡工業高等専門学校	東北芸術工科大学	山形県立保健医療大学	東北公益文科大学	東北文科大学	東北文教短期大学部	放送大学山形学習センター	山形県立産業技術短期大学校	産業技術短期大学校庄内校	山形県立農林大学校	山形県立米沢栄養大学	山形県立米沢女子短期大学	山形工科短期大学校	国立大学法人山形大学
2 教員数	16人	62人	99人	56人	43人	22人	35人	1人	35人	18人	34人	21人	33人	3人	821人
3 事務職員数	11人	40人	94人	12人	46人	18人	22人	1人	8人	6人	7人	18人	18人	5人	1377人
4 女性教員数	6人	6人	11人	32人	10人	3人	19人	0人	2人	2人	7人	11人	10人	0人	120人
5 女性教員の割合	37.5%	9.7%	11.1%	57.1%	23.3%	13.6%	54.2%	0.0%	5.7%	11.1%	25.9%	64.7%	30.3%	0.0%	14.6%
(前年度の割合)	31.3%	9.6%	13.7%	56.4%	20.5%	15.0%	55.0%	14.0%	5.7%	5.6%	24.0%	50.0%	30.3%	0.0%	15.0%
6 女性事務職員数	6人	13人	50人	6人	27人	14人	18人	0人	2人	1人	3人	5人	5人	2人	840人
7 女性事務職員の割合	54.5%	32.5%	53.2%	50.0%	58.7%	77.7%	81.8%	0.0%	25.0%	16.7%	42.9%	27.8%	27.8%	25.0%	61.0%
(前年度の割合)	54.5%	31.7%	54.3%	58.3%	58.3%	70.0%	77.0%	17.0%	20.0%	14.3%	42.9%	35.3%	35.3%	20.0%	43.4%
8 女子学生数	180人	140人	1605人	359人	312人	264人	328人	270人	18人	17人	28人	167人	589人	10人	2663人
9 女子学生の割合	96.3%	17.4%	67.4%	77.0%	33.8%	72.7%	85.2%	54.1%	7.5%	34.0%	25.0%	96.0%	100.0%	45.0%	36.9%
(前年度の割合)	91.8%	15.7%	67.6%	80.8%	35.3%	73.0%	81.0%	54.0%	7.0%	21.0%	23.5%	95.5%	100.0%	32.0%	36.8%
10 女性管理職の割合	22.2%	0.0%	23.1%	22.2%	28.6%	40.0%	42.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	16.7%	12.5%	14.3%
(前年度の割合)	22.2%	0.0%	27.8%	33.3%	22.2%	28.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	16.7%	10.0%	14.3%
11 役員に占める女性の割合	18.2%	%	0.0%	12.5%	6.3%	10.0%	10.0%					20.0%	20.0%	14.0%	12.5%
(前年度の割合)	10.0%		0.0%		6.3%	9.0%	9.0%					28.6%	28.6%	11.0%	12.5%
12 男女共同参画基本計画	無	H 2 3	無	無	H 2 6	無	無	無	H 2 8	H 2 8	H 2 8	無	無	無	H 2 2
13 男女共同参画推進の組織	無	男女共同参画推進委員会	無	無	大学戦略推進室(女性研究者対応)	無	無	無	男女共同参画課	男女共同参画課	男女共同参画課	ダイバーシティ研究環境実現プロジェクトチーム	無	無	男女共同参画推進室
14 一般事業主行動計画	無	H 2 8	H29	無	無	無	無	無	H 2 8	H 2 8	H 2 8	無	無	無	H 2 8
15 女性教員割合の目標	無	専門学科20%、全体30%	無	無	25.0%	無	無	無	無	無	無	47.1%	無	無	17.0%
16 女性管理職割合の目標	無	教授職7%事務10%	無	無	無	無	無	無	15%(山形県全体として)	15%(山形県全体として)	15%(山形県全体として)	無	無	無	20.0%



### リニューアルオープンイベント

2月1日(土)

・県立図書館リニューアルオープン



吉村知事の挨拶 ↑



テープカット ↑

・山形大学理学部学生による実験教室「くうきのふしぎ」



・やまがた夜話「仏像の研究者たち」

講師：渡邊 真吾氏



2月2日(日)

・放送大学山形学習センターによる「親子算数教室、親子科学教室」



算数教室 (講師: 佐藤 圓治先生)



算数教室



科学教室 (講師: 栗山 恭直先生)



科学教室

・加盟機関紹介パネル展示

